

いながわ特派員報告



鎌屋 郁子



本田 さとみ

碁盤をはさんで真剣勝負

若い頃は学生リーグで活躍されていた津田誠明さんは、ねんりんピック（全国健康福祉祭）で優勝されるなど意欲的に囲碁に取り組んでおられます。バンクの主旨に賛同し自分のできる範囲で協力したいと登録されました。一方、中谷中学校1年の横山雄亮君は、人気マンガ「ヒカル碁」を読んで囲碁に興味を持ちました。一度習ってみたくなり、お母さんがバンクに申込みました。現在、津田さんの自宅で週1回レッスンを受けています。「一生懸命努力するので、みるみるうちに上達して、教えがいがあります。」と愛弟子の成長ぶりに目を細める津田先生。将来が楽しみです。



明日の棋士を目指して

シュガークラフトに挑戦

7月3日、六瀬中学校でPTAを対象にシュガークラフトの講習会が行われました。講師の古賀裕子さんを迎えて、26人のお母さんがシュガークラフトに初挑戦。なごやかな雰囲気の中、世界でただ一つの素敵な作品ができあがりました。古賀さんは、「昨年末に登録し、今回で2回目の講習会です。作品を手に笑顔で帰られる姿を見るとうれしくなります。」と語っておられました。



和気あいあいと作業が進みます

「よろずやバンク」という名前を聞いたことがあります。これは地域のふれあい、生涯学習の振興、町民の後継者育成を目的として、昨年6月に本町のPTA連合会が作った人材バンクです。今回はこのバンクを初めて利用したグループ、また継続的に利用している人達を訪ねて、教える側教えられる側の温かい交流を取材しました。

よろずやバンクってなに？

ます。料金は無料のものが多くありますが、内容によっては有料もあります。

教え、教えられる交流

最近、人と人の関わりがわずらわしいという風潮がありますが、本当にそう思う人が多いのでしょうか。人は誰でも人の役に立ちたいという思いを持っており、お互い助け合い、人と人の交流の中で生きていくのだと思います。実際、バンクに登録した人達は登録の動機として、自分の特技を通して地域の人の何か役に立ちたい、同じ趣味の人と交流を持ちたいなどをあげている人が多いのです。ツールペイント教室の生徒

廃材もよみがえる リサイクルツールペイント

中央公民館で月1回リサイクルツールペイント教室が行われています。1年前、町内の主婦8人がツールペイントをやるにあたり、よろずやバンクを通して先生を探したのがこの教室の始まりです。ここでは、家にある廃材を使い、リサイクルを考えた作品作りをしています。先生の家門隆子さんは「私はここでツールを教えています。反対に人生の先輩である生徒さんに色々なことを教えてもらうことも多く、勉強になりとても楽しいです。」と語られていました。

先生の丁寧な指導で、どんどん上達します



親子でスポーツトレーニング



まずは、ストレッチから始めましょう

6月28日、白金小学校6年生の学年活動でスポーツトレーニング講習会が行われました。講師はシドニーオリンピックトライアスロン競技のコーチでもあり、ご自身も選手として活躍されている八尾彰一さんです。日頃あまり使っていない筋肉を使った運動や、スポーツトレーニングの正しい知識など専門的な内容を大変分かりやすくお話しいただきました。

八尾さんはバンクの閲覧ファイルを偶然見かけ、地域の活性化に協力したいと思い登録されたそうです。「スポーツをやっている者として、子ども達にぜひ正しい知識を教えていきたい」と意欲を持って指導にあたられていました。

広がれ！
よろずや
バンクの
輪

よろずやバンクの利用法

- 閲覧ファイルで人材探し
- よろずやバンク事務局へファックスで申込み
- 事務局が登録者へ確認
- 事務局から利用者へ人材データを送付
- 登録者へ利用者が直接依頼
- 活動後の報告

よろずやバンク代表者の和田富士夫さんは「年齢や立場を問わず、地域の人達の出会いと助けができればうれしいです」とバンクへの登録や利用を広く呼びかけています。

問い合わせは、和田宅（69-0717）または、辻口宅（66-3377）へ。



編集後記

「よろずやバンク」のことは以前から知っていましたが、改めて登録ファイルを見て、登録内容、登録者数が発足時よりかなり増えており、充実してきたことを実感しました。しかし残念なことにバンクの利用者が少ないのが現状です。

事務局は登録者や利用者の意見を取り入れ、「うちの町にはこんないい人材バンクがある」と町民が自慢できるバンクを目指して、がんばって欲しいです。このバンクに興味を持った人はぜひ一度、ファイルを手にとってみてください。新しい出会いが待っていますよ。

いながわ特派員